

# 滑液包炎と可視総合光線療法

財団法人光線研究所 所長  
医学博士 黒田一明

## ■ 滑液包炎

骨や軟骨、靭帯、筋膜に包まれた筋や腱などは運動器官として互いに、あるいは周囲の器官との間で摩擦を生じます。この摩擦を吸収するために肩、肘、股、膝、足などの関節の皮下には滑液包という袋があって、わずかな液が貯留しクッションの役目を担っています。この滑液包が機械的な刺激や無理な力が加わったり、動かすすぎ、感染によって炎症が生じて、痛みを起こしたり、腫れる（水腫）ことがあります。この状態を滑液包炎といいます。

### ◆ 原因

滑液包炎は機械的刺激（運動、圧迫）、外傷、痛風、偽痛風、関節リウマチなどの疾患、細菌感染などによって起こることがあります。原因が不明なものも多くあります。肩関節ではカルシウムの沈着（石灰化）がみられることがあります。

### ◆ 症状

滑液包炎の症状は痛み、腫れ（水腫）、関節の運動制限がみられます。細菌感染を伴った化膿性滑液包炎の場合は速やかに排膿を行い、抗生物質の投与を行う必要があります。細菌感染でない場合は必ずしも貯留液を穿刺して吸引する必要はなく、放置してもよいこともあります。関節への刺激をなるべく減らすことが大切です。

## ■ 可視総合光線療法

光線療法やその原型である日光浴には身体の水たまり、すなわちむくみや関節の水腫を軽減する働きがあることがよく知られています。この作用は光線療法の連続スペクトルの各作用によるものです。近赤外線は深部温熱作用によって身体を温め、代謝・血行を良好にし、可視線はエネルギー代謝・内分泌・免疫を調節し、紫外線は殺菌作用やビタミンDなど光産物の産生によって抗炎症作用を促します。これらが総合的に作用することで関節リウマチなど炎症性の腫れに対しても光線療法は効果的です。

今回は肘の化膿性滑液包炎1例と足関節の滑液包炎2例について解説します。なお、膝の滑液包炎（水腫）は本紙517号に、肩の滑液包炎（五十肩）は548号にそれぞれ掲載されています。

◆治療用カーボン：3001-5000番、3001-4008番、1000-3001番、1000-4001番、3000-5000番などを使用します。

◆照射部位：両足裏部⑦10～20分間照射、両足首部①・両膝部②・腹部⑤・腰部⑥（以上集光器使用せず）、後頭部③（1号集光器使用）各5分間照射、症状に合わせてこれらの部位を組み合わせる。罹患関節の患部は1号集光器あるいは2号集光器を使用して10～20分間照射。

## ■ 治療例 1 【右肘関節の化膿性滑液包炎】 75歳 男性会社役員

- ◆ **症状の経過** : 54歳時、腰痛、左五十肩のため当附属診療所を受診し光線治療を始めた。60歳頃から治療用カーボン3002-5000番を使用し尿道結石の光線治療を行っていた。65歳時、右肘の腫れと痛みで、整形外科を受診した。感染経路は不明であったが、細菌感染による化膿性滑液包炎と診断された。注射器で膿を数回抜いていたが改善がないため、当附属診療所を再診した。
- ◆ **光線治療** : 尿道結石には治療用カーボン3002-5000番を使用し、⑦⑥各10分間、②⑤③各5分間と左右咽喉部④各5分間交互照射、右肘の化膿性滑液包炎には治療用カーボン3001-4008番を使用し右後肘部③④20分間照射。
- ◆ **治療の経過** : 毎日自宅治療を行った。肘の腫れは3001-4008番を使用し治療1週間で腫れ、痛みは軽減し治療2カ月後に完治した。その後再発なく経過した。75歳の現在、光線治療を続けて尿路結石の再発はなく体調はよい。



## ■ 治療例 2 【右足関節の滑液包炎】 76歳 女性主婦

- ◆ **症状の経過** : 60歳頃から糖尿病で食事療法を行っていた。67歳時、白内障、右足首の腫れもあったので友人の紹介で当附属診療所を受診した。
- ◆ **光線治療** : 治療用カーボン3001-4008番を使用し、⑦背正中部⑧右足首各10分間、①腓腹筋部⑨⑤⑥③左右こめかみ部⑩⑪各5分間照射。
- ◆ **治療の経過** : 毎日自宅で治療を行った。治療1年後、足首の腫れは半減した。治療1年3カ月後、腫れはさらに縮小し足首の動きがよくなり歩行が速くなった。治療1年6カ月後、腫れは完全になくなった。治療3年後、腫れの再発はないが、糖尿病のコントロールが悪くなった。治療5年後、白内障の手術を受けた。治療9年後の現在、糖尿病はHbA1cは8%とよくないが、光線治療で大変元気である。



### ■ 治療例 3 【左足関節の滑液包炎】

80歳 女性 主婦

- ◆**症状の経過**：46歳時、腰痛、左下肢のしびれ（腰椎すべり症）のため知人の紹介で当附属診療所を受診し、光線治療を始めた。時々当所を受診し治療を続けていた。66歳時、左足首の腫れがみられるようになり、当附属診療所を再診した。
- ◆**光線治療**：治療用カーボン3001-4008番を使用し、⑦①②⑥各10分間、⑤③各5分間、左足首各20分間照射。
- ◆**治療の経過**：毎日自宅で治療を続けた。治療1カ月で腫れはなくなり、その後は再発がみられない。80歳の現在、健康保持のため光線治療は続け、体調は良好で非常に元気である。大正琴、水泳、パッチワークなど趣味は多彩である。光線療法で腰痛、ケガ、湿疹など様々な症状に効果を上げてきた。左足首の腫れが光線治療わずか1カ月間で治癒し、再発がないことを受診のたびに強調している。